

2022年度 日本工学院専門学校											
建築学科											
高度資格対策 2											
対象	4 年次	開講期	前期	区分	必修	種別	講義	時間数	30	単位	2
担当教員	赤石 辰夫 他			実務経験	有	職種	施工管理／一級建築施工管理技士				
担当教員紹介											
建設会社で現場監督として勤務し、2 階建ての信用金庫支店から 1 4 階建ての高層住宅まで様々な施工管理を担当。また超高層RC 造の技術開発にも参加し、日本建築センターの技術評定でも施工を担当した経験を持つ。											
授業概要											
教科書を用いた講義により通常授業で学んだことから試験問題のポイントについて学び直す。また、過去問題を用いた演習と解説を行うことで、2級建築施工管理技士同等の実践的知識の習得を行う。同時に模擬試験を行い、実践力を養う。											
到達目標											
2級建築施工管理技士試験と同等レベルの問題について70%以上の正解率を上げられることを目標とし、それと同等の知識の修得を目指す。そのためには、過去 1 0 年以上の試験問題について精査し幅広い内容の中から定番となる問題を中心に理解し、余裕のある項目については各自が判断して難問にも挑戦し高得点につながるようにレベルアップを図る。また、四択問題の形式に慣れて試験時間の配分なども考慮して受験するテクニックも身に付ける。											
授業方法											
目標達成のため下記授業内容詳細により授業を展開する。											
成績評価方法											
試験・課題	60%	試験と課題を総合的に評価する									
小テスト	30%	授業内容の理解度を確認するために実施する									
平常点	10%	積極的な授業参加度、授業態度によって評価する									
履修上の注意											
これまで一般構造・建築材料・建築生産・計画・環境工学・法規などとして別れて学んだことを、建築の総合的な知識として学び直すこと。過去6回分の問題集は主に自宅学習で繰り返し解き、模擬試験で十力を確認すること。また、夏期休暇中には復習を怠らないこと。											
教科書教材											
2級建築施工管理技士学科テキスト(2020年度)、2級建築施工管理技術検定過去6回試験問題											
回数	授業計画										
第1回	地盤・基礎構造、木構造 地盤と基礎形式、在来軸組み工法、木材の接合方法などの理解										
第2回	RC構造、S構造 鉄筋の役割、鉄骨の接合などの理解										
第3回	換気、伝熱・結露 自然換気と機械換気、伝熱と断熱、結露の防止などの理解										
第4回	構造力学 反力・トラスの求め方、応力図などの理解										
第5回	日照・日射 建築の日蔭、直達日射と天空日射などの理解										

2022年度 日本工学院専門学校	
建築学科	
高度資格対策 2	
第6回	日照・日射 建築の日蔭、直達日射と天空日射などの理解
第7回	採光・照明、音響 昼光の照度、採光、照明方式などの理解
第8回	建築材料 躯体材料と仕上げ材料などの理解
第9回	総合演習 実力確認、受験申し込み手続きの解説
第10回	音響、色彩 音の性質と単位、遮音と吸音、色彩の効果などの理解
第11回	仮設工事、土工事、基礎工事 建築測量・仮囲い・足場、根切り・排水・山留、砂利地業・杭工事などの理解
第12回	建築基準法、建設業法 用語の規定、建設業の許可、請負契約などの理解
第13回	RC造工事、S造工事 型枠工事、鉄筋工事、コンクリート工事などの理解
第14回	模擬試験 建設業法の補足、実力確認
第15回	総合演習 模擬試験結果